

ひと かか ふか とり
人と関わりの深い鳥たち

ツバメ 旅 

全長17cm

年に2回^{ひらい}飛来す

る。耕作地や畜舎近くの草地の上を
ていく と まわ むし た
低空で飛び回り、虫を食べる。



リュウキュウ
ツバメ

全長14cm

はる なつ じん か
春～夏に人家や

はし した す つく くら
橋の下などに巣を作る。ツバメに比
べ尾が短い。

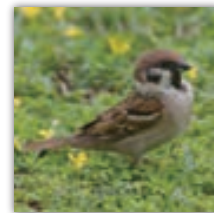


ツバメは夏に日本列島で繁殖し、東南アジアで冬を過ごす。

します。春と秋の渡りの途中で宮古諸島に飛来しますが、
 その時期が豆を植えて花が咲く時期と、収穫する時期に重
 なるため、豆を表す言葉が方言名になっています。



参考:『ツバメの方言とその由来、および各地におけるツバメ観—宮古からの出発—』 渡久山章(宮古の自然と文化第3集,2011)



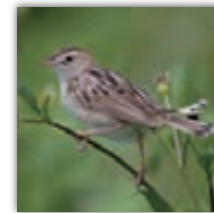
スズメ  

全長14.5cm

宮古^{ぜんいき}全域で方

言名がある。

虫捕りは苦手。繁殖期以外は集団で
一か所をねぐらにする。

セツカ 留  

全長12.5cm

な じょうげ
鳴きながら上下に

飛ぶ。オスはスス

キの葉をクモの糸で縫い合わせて巣の外壁を作り、それを気に入ったメスが内装を仕上げて産卵・子育てをする。

あわ もり
【スズメと泡盛のはじまり】

昔、米や粟のよくとれる田んぼ
 の横の木に、たくさんのスズメが
 米や粟の穂をくわえて帰ってはつ
 ついて食べていました。いつしか
 こぼした米や粟が木のうろに溜ま
 り、雨でふやけて麴ができ、ころ
 みに変わりました。それをスズメ
 が舐めたりつついているのを見た
 人が「これは飲めそうだ」と、粟
 でお酒をつくって飲んでみると、
 なんといいお酒でした。これを
 「泡盛」と名付けました。



参考:『いらぶの民話』遠藤(1989)

ひばり い みず
【雲雀と生き水】

昔、ヒバリは一番大きい鳥で、神様
つか かしこ
の使いでした。賢く、巣作りもとても
じょうず す でい み
上手でした。ある日、神様が「巣出水
ちゅう ま つ
を持って天に昇ってきなさい」とヒバ
めい と
リとヒビに命じます。天に向かう途
ちゅう ま つ
中、ヒビがヒバリの足に巻き付いてき
たので、びっくりしたヒバリは持つて
あ
いた巣出水をヒビに浴びせてしまいま
した。それを聞いた神様は「水を浴び
き
たヒビは永遠に生きられることになっ
えい えん い
た。ヒビの悪知恵に負け罪を犯したお
わる ご え ま つみ おか
前を罰として絞り上げる」と、ヒバリ
まえ ばつ しほ あ
の体を小さくしてしまいました。

※巢出水：生き水のこと。これを浴びると健康に
恵まれるとされ、豊年祭の翌日に浴びる。

参考:『ゆがたい宮古島の民話 第四集』宮古民話の会(1984)



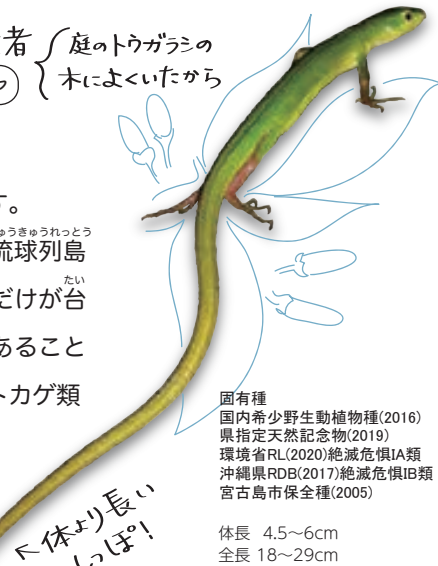
宮古諸島で確認されている陸棲爬虫類は7科17属18種です。ほとんどの種は宮古諸島以南でしか見られない固有種です。特にミヤコカナヘビやミヤコヒバアは、島の成り立ち解明のカギを握るとされ、その存在が注目されています。

ミヤコカナヘビ



草地にすみ、クモや昆虫を好んで食べます。
1996年に新種として登録、DNA調査で琉球列島にいる緑色のカナヘビ3種のうち、本種だけが台湾や大陸産の薄茶色のカナヘビが祖先であることが分かりました。宮古諸島の成り立ちやトカゲ類の体色の進化を知る上で貴重な存在です。現在、数が激減し、国の保護増殖事業により、地域外で飼育・繁殖が行われています。

トウガラシを食べる者
クースウファヤ



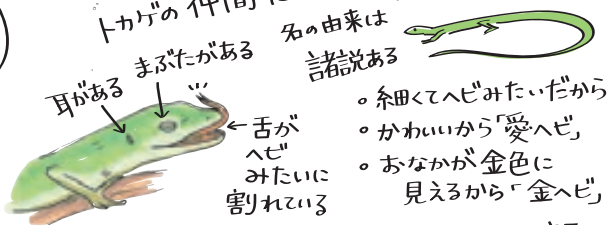
固有種
国内希少野生動植物種(2016)
県指定天然記念物(2019)
環境省RL(2020)絶滅危惧IA類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧IB類
宮古島市保全種(2005)

体長 4.5~6cm
全長 18~29cm

研究で明らかになったこと

- ・多くの個体は1年以内に寿命が尽きる
- ・春から秋が繁殖期で、春に生まれると夏には繁殖でき、秋に生まれた個体は次の春に繁殖することで個体数を維持している

トカゲの仲間 だけどカナヘビ？



- ・糸田てへびみたいだから
- ・かわいいから「愛へび」
- ・おなかが金色に見えるから「金へび」

さて。

トウガラシを食べる仲間

クースウフォブナカ

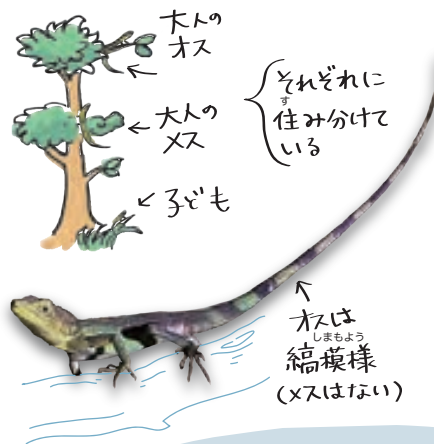
サキシマキノボリトカゲ



環境省 RL(2020) 準絶滅危惧
沖縄県 RDB(2017) 準絶滅危惧

頭胴長 オス4.8~7.7cm/メス4.7~6.8cm
全長 オス27cm/メス20cm

昆虫や特にアリを好んで食べる。なわばりを持ち、オスは威嚇するときに腕立て伏せのような動きをする。



それぞれに住み分けている

オスは縞模様(メスはない)

火田の魚

バカギジャ、パリイゾウ

キシノウエトカゲ



国指定天然記念物(1975)
環境省RL(2020)絶滅危惧II類
沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧
宮古島市保全種(2005)

体長 オス17cm/メス14cm
全長 オス40cm/メス33cm

幼体は尾が青く、
胴体にワ本のタテ糸線が入る

昔は食べた。
見た目がオジサン
(に似ているから「火田の魚」)



砂地や集落周辺の石垣などに生息する国内最大のトカゲ。宮古全域にいたが数が減っている。「島嶼化」という動物の進化論を語るうえで重要な種。

亜種とは

同じ種でも、生息環境が異なると色や形に違いが出てくることがあり、これらをその種の「亜種」といいます。離島などほかから切り離された環境では亜種になることが多くなります。

A島

B島

島嶼化

小さな島ではほ乳類などの大型動物は小さく、昆虫類や両生類、爬虫類などの小型動物は大きくなる傾向にあります。



実は鳴くのはこの種だけ

／キョッキョッキョッ／

ヤーズミ



ホオグロヤモリ



奄美大島より南に生息。家の中や外灯の近くにいる。宮古は畑でもよくみる。

頭胴長 4.5~6cm
全長 9~13cm

トカゲの仲間だけど 夜行性なので まぶたにはない



ヤーズミ



ミナミヤモリ



屋外の庭木や自然林にいる。背や尾に縞模様が入ることが多い。

頭胴長 5~6.5cm
全長 10~13cm

ヤーズミ

オンナダケヤモリ



尾が平たく太く見える。薄暗い場所を好み押入などによくいる。

頭胴長 4~5.5cm
全長 10~12cm



ねんちやくぶっしつ きゅうばん 粘着物質でも吸盤でもない!

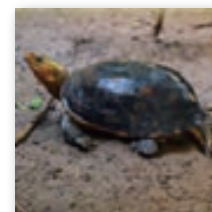
ヤモリの足の裏、すごいんです

ヤモリの足指の裏には1000分の1ミリほどの毛がびっしり生えています。この毛の先はさらに細く枝分かかれし、壁やガラスの表面のデコボコに入り込みます。すると、毛と接したところに「ファンデルワールス力」というとても小さな引力がたろき、それが足指に集まることで、吸盤のような吸着力を生み出しているのです。



ほごたいしょう がいらいしゅ 保護対象なのに外来種?

セマルハコガメは、石垣島と西表島に自然分布している個体が国の天然記念物に指定されています。ところが、ほかの島々では国内外来種になってしまいます。その島の在来種と交配して雑種ができたり、固有種のカタツムリなどを食べてしまう可能性など、さまざまな影響が心配されています。しかし、天然記念物であるために、「文化財保護法」で守られており、許可なく捕獲したり譲渡することができません。保護をしても元の場所に戻すこともできず飼育するしかないため、悩みの種になっています。同じようにヤエヤマシガメも希少な保護対象の種ですが、県の天然記念物であるミヤコサワガニを捕食していることが分かり、対策が必要になっています。



セマルハコガメ

甲長11~17cm



ヤエヤマシガメ

甲長12~19cm

国指定天然記念物(1972)
環境省RL(2020)絶滅危惧Ⅱ類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧Ⅱ類
環境省 総合的に対策が必要な外来種
沖縄県 防除対策外来種(石垣島・西表島以外)

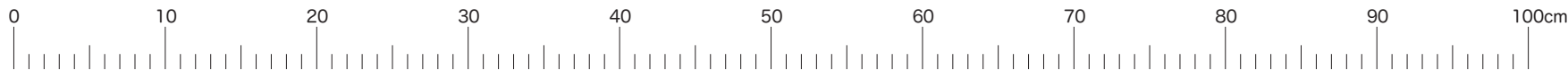
環境省RL(2020)絶滅危惧Ⅱ類
石垣市自然環境保全条例保全種
竹富町指定特別希少野生動物種
沖縄県指定希少野生動物種(石垣島、西表島、与那国島の自然分布個体群に限る)
環境省 総合的に対策が必要な外来種
沖縄県 防除対策外来種(石垣島・西表島・与那国島以外)

甲羅の中に頭や手足を完全に収めることができる。アダンの実やサツマイモ、昆虫、ミミズ、カタツムリ類、大型動物の死骸などを食べる。

流水のある浅い水辺を好み、水草や藻類などの植物、昆虫類、甲殻類、オタマジャクシなどを食べる。



※2015年の環境省の調査で約6000個体が食用やペットとして海外に輸出され、自然における個体数は約3万3000と推測することから、現在ワシントン条約に基づいて輸出規制を行っている



しよくりょう
食糧が少ないうち
時代は食べた。
いきち あぶら くすり
生血や脂は薬として利用した。



アカトウカラ

サキシママダラ

環境省RL(2020)絶滅の恐れのある地域個体群
宮古島市保全種(2005)

やこうせい おも ちひょう せい かつ
夜行性で主に地表で生活し、カエルやヘビなどを食べる。フスバヴとも呼ばれ、フンのように丸くなってみつかかることもある。



フス

子を患へるヘビ
フファダマバヴ
尾が切れているヘビ
ズーキシバヴ
神のヘビ
カムバヴ

ミヤコヒメヘビ

環境省RL(2020)絶滅危惧IB類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧I B類
宮古島市保全種(2005)

しめ ばしょ せんもんてき
湿った場所にすみ、ミミズを専門的に食べる。
おき かみ つか いえ や
尾が切れているヘビは神の使いとされ、家や屋敷内で見つけたら丁寧に外へ逃がした。



ミヤコヒバア

固有種
国内希少野生動植物種(2020)
環境省RL(2020)絶滅危惧IB類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧II類
宮古島市保全種(2005)

カエルやヤモリを食べる。現在の姿になった時代は宮古諸島は海に沈んでいたとされており、島の成り立ちを知る上でとても重要なヘビ。



縞模様

↑
お腹が
白〜レモン色

サキシマバイカダ

宮古島市保全種(2005)

じゅじょう
夜行性で主に樹上で生活し、トカゲやヤモリを食べる。細長く華奢。



目が大きく
左右に
飛び出ている



ズバヴ

ブラーミニメクラヘビ

げんさんち ふめい
原産地は不明。ツヤのあるウロコをもち、目はとても小さい。メスだけで繁殖する。シロアリやアリが好物。



ミミズのようなけどよく見るとウロコも目も舌もある



ヘビです

オーナズバヴ

サキシマスジオ

環境省RL(2020)絶滅危惧II類
さいだい しんりんかんきょう せいそく
国内最大。主に森林環境に生息するが、人家周辺や畑などにもいる。ネズミや小鳥を食べる。



スジのある尾
スジオ

ハブはいない？

いま
今の宮古にハブがいないのは、かつて生息していた大型のハブが絶滅したからで、土壌が合わないというわけではありません。ハブのいる島々と同じような自然環境があるため、人間によってハブが持ち込まれると、定着してしまう可能性があります。





宮古諸島の陸棲両生類は、在来種のみヤコヒキガエルのほか4科4属4種が確認されています。



カーフウナタ

ミヤコヒキガエル

固有種
環境省RL(2020)準絶滅危惧種
宮古島市保全種(2005)

全長 6~12cm

宮古島と伊良部島の農地や森林付近に生息する。秋から翌春の繁殖期にメスの上にオスが抱きつく様子が見られる。乳白色の毒液を分泌するため食用にはしなかった。



マナタ

サキシマヌマガエル

全長 4.5~7cm

水納島、大神島以外の宮古全域に生息。繁殖期の春から夏に大合唱が聞こえる。昔は数も多く、捕って腿の部分を食べた。



クパガラ

ヒメアマガエル

全長 2.3~3cm

宮古島、伊良部島、多良間島に生息。動きが速く鳴き声が大きいため「元気、硬い」という意味の方言名がつく。

オタマジャクシの体がすくっている



シロアゴガエル

宮古全域に生息。泡状の卵塊を水辺の草木に産む。指に吸盤があり、植物だけでなく車や荷物に吸着して移動できるため、分布が広がる可能性がある。



卵塊

生き物に関わる法律や条例

南西諸島はそれぞれの島に固有の動植物が生息しています。これらの多くは珍しく希少なため、さまざまな法律で手厚く保護されています。野生生物や環境も守りながら自然を楽しめるよう、知っておきたいルールです。

天然記念物は「触らない、そっと見守る」

特にオカヤドカリ類は宮古で普通に見られる動物ですが、許可なく捕まえたりすると罰則の対象になります。(文化財保護法)

宮古島市保全種は「捕まえない、傷つけない」

届け出なしに捕まえることや、傷つけ、命を奪うことは罰則の対象になります。(宮古島市自然環境保全条例)

国内希少野生動植物は「捕まえない、傷つけない、他人に譲らない」

販売はもちろん、無料で譲り渡すことも禁止されています。羽や角など体の一部や殻、加工品であっても罰則の対象です。(種の保存法)

絶滅危惧種を守るために「生息環境を荒らさない」

法律の規制はありませんが、生息環境を悪化させないことは絶滅を食い止めることにつながります。

沖縄県RDB??

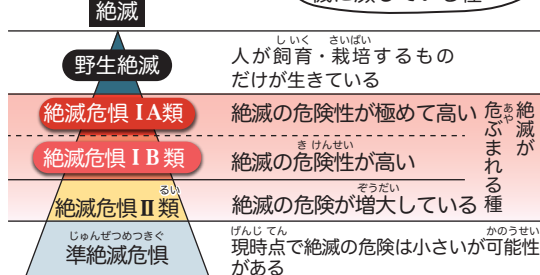
環境省RL??

リストの見方(例)

沖縄県RDB: 絶滅危惧Ⅱ類
環境省RL: 絶滅危惧ⅠA類

沖縄県では絶滅の危険が増大していて、日本国内では絶滅の危機に瀕している種

レッドリストとは、絶滅のおそれのある野生生物の種のリストで、国際的には国際自然保護連合が作成しており、国内では環境省のほか、地方自治体やNGOなどが作成しています。





じっ きゃくこう かく るい
十脚甲殻類とは、エビ、カニ、ヤドカリ類のことで、パツと見て足が5対10本であることが大きな特徴です。宮古諸島には陸上や陸水域に11科31属62種が生息し、オカガニやヤシガニ、オカヤドカリなどの珍しい種を身近に観察することができます。

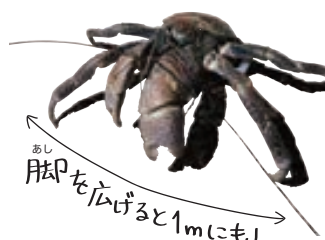


マクガン ヤシガニ



環境省RL2020絶滅危惧Ⅱ類
沖縄県RDB2017絶滅危惧Ⅱ類
多良間マクガン保護条例(2010)
宮古島市ヤシガニ保護条例(2011)

オカヤドカリの仲間では世界最大。おもに海岸林に生息し、植物の実や動物の死骸などを食べる。ハサミの力がとても強い。成長がとても遅く、メスは成熟に10年、500gになるのに25年以上かかる。



ヤシガニの生活史



大潮の満潮時に海に放卵し、ゾエア幼生というエビのような形で海中で浮遊します。数回脱皮を繰り返してグラウコトエ幼生まで成長すると、海中で自分に合った貝殻を探し、陸に上がります。この頃はオカヤドカリと見分けはつきません。脱皮を繰り返しながら約2年半ヤドカリの状態で過ごし、殻を脱いで大人のヤシガニと同じ姿になります。

ヤシガニの保全

ヤシガニは島民にとって貴重な食料でしたが、近年、観光客に珍味として注目され、乱獲によって数が減ってきています。そこで、多良間村と宮古島市は他地域に先駆けて保護条例を制定・施行し、保全に取り組んでいます。

宮古島市

ヤシガニ保護条例(2011)

- ・島内4か所の保護区域：通年捕獲禁止
- ・保護区内外の密猟防止のための保護監視員を設置
- ・6月1日～8月31日は保護区外でも捕獲禁止
- ・捕獲禁止期間以外は、甲長8cm未満と12cm以上、抱卵しているメスは捕獲禁止

池間地区



来間地区



七又地区



多良間村

マクガン保護条例(2010)

- ・7月1日～8月31日は採取禁止
- ・甲長8cm以下または重さ600g以下、抱卵メスは通年採取禁止



起点と中間に看板が設置されている

間那津地区



国土地理院の空中写真を加工、加筆

オカヤドカリ類



国指定天然記念物(1970)

アマン

ヤシガニと同じように幼生の時は海で過ごし、貝殻を背負って上陸して稚ヤドカリになります。雑食性でなんでも食べ、砂浜や海岸、海岸沿いの林などに生息し、夜に活動します。宮古諸島では6種のオカヤドカリを見ることができます。

※特徴はあくまで目安です。小さいときはほとんど見分けがつきません。



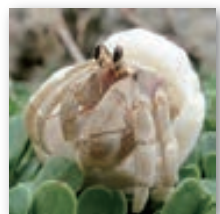
オカヤドカリ

ハサミが
つるん！と
している



ムラサキ オカヤドカリ

全身が
ふさき色



ナキ オカヤドカリ

ここぞ
音を出して
いるとも
言われている



コムラサキ オカヤドカリ

マングローブ
にいる



オオナキ オカヤドカリ

目が
円柱状



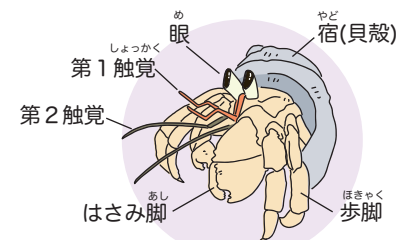
サキシマ オカヤドカリ

まっ赤な
体色

環境省RL(2020)準絶滅危惧
宮古島市保全種(2005)

環境省RL(2020)絶滅危惧Ⅱ類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧Ⅱ類
宮古島市保全種(2005)

観察してみよう



眼

まん丸 たて長



ハサミ



色

幼生



見た目はそっくりだが
よく見ると違う

成体



陸のヤドカリと海のヤドカリは違う



ヤドカリの仲間はエラ呼吸で、ほとんどの種類は一生を海で過ごし、水中でしか生きられません。一方、オカヤドカリ類は水中に入ると溺れてしまいます。



天然記念物なのにペット！？

オカヤドカリが天然記念物になったのは、小笠原諸島の個体数減少がきっかけでした。沖縄県が日本に返還されたあと、県内のオカヤドカリも天然記念物になりましたが、当時、琉球列島

ではそれほど珍しい生物ではなかったため、捕獲・販売して生計を立てていた業者もいたことから、一部地域の指定業者にだけ捕獲・販売を認めることになりました。



オカガニ類



卵を海に流す様子

オカヤドカリ類と同じように成体は陸に棲みますが、幼生は海で生活します。中でもオカガニが満月の夜に満潮に合わせて一斉に放卵の様子は、夏の時期しか見ることができない貴重な風景です。



オカガニ

甲幅 約6cm

宮古島市保全種(2005)



オオオカガニ (ミナミオカガニ)

甲幅 10cm超

海岸付近の林や水辺に巣穴を掘って生息する。夜行性で植物や小動物・死がいなどを食べる。宮古では食用として利用されていた。

日本産オカガニ類で最大。マングローブ域や海岸周辺に巣穴を掘って生息する。雑食性で植物や小動物、動物の死がいなどを食べる。

ほかにもいるよ!

日本一小型!

ムラサキオカガニ



環境省RL(2020)準絶滅危惧
沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧

ヒメオカガニ



環境省RL(2020)準絶滅危惧
沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧

ヤエヤマヒメオカガニ



ヘリトリオカガニ



環境省RL(2020)準絶滅危惧
沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧

ミヤコサワガニ



オカガニは、何万個の卵を持ってがサワガニは数十個。お腹で稚ガニがふ化する!

宮古島内の数カ所の湧水に生息。植物やカタツムリ、ヤゴなどを食べ、一生を淡水域で過ごす。1997年に発見され2002年に新種として登録。

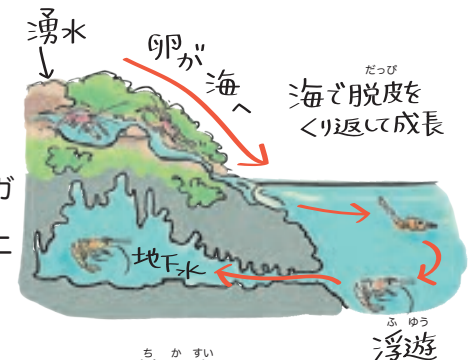
固有種
沖縄県天然記念物(2010)
国内希少野生動植物種(2016)
環境省RL(2020)絶滅危惧 I 類
沖縄県RDB(2017)絶滅危惧 I A 類

島の成り立ちのカギをにぎる!?

淡水にしかないミヤコサワガニが発見されたことで「過去に宮古島は海に沈んでいるので、陸にすむ生き物はすべて滅びた」という説が見直されました。

その他の淡水域の生き物

宮古諸島の湧水環境に生息するエビ、カニ類は27種いますが、ミヤコサワガニ以外は一度海へ出て、稚エビ・稚ガニとなって湧水域に戻ってきます。



湧水などにすむ

地下水にすむ

サキシマヌマエビ



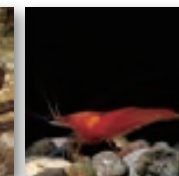
コンジテンナガエビ



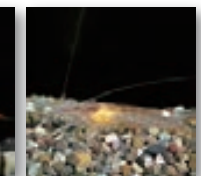
モクズガニ



ドウクツヌマエビ



ウリガーテナガエビ



宮古島市保全種(2005)

陸産貝類

陸産貝類とは陸上にすむ巻貝の仲間で、一般にカタツムリといわれています。水中では生きられず、遠くに移動できないことから、独自に進化して固有種になることが多いといわれ、宮古諸島に生息する20科45種のうち、約4分の1の10種が固有種です。

ピサムーナ
アカマイマイ
 殻径20~30mm
 よく見かけるが実は固有種。
 赤く平べたい
 おへつがとて大きい
 固有種(下地島を除く) 宮古島市保全種(2005)

オキナワ ウスカワマイマイ
 マームーナ
 おきなわ いちばん
 沖縄で一番よく見られる種。昔は食べていた。
 殻径最大4cm

ナンヨームーナ タイワンムーナ
アフリカマイマイ
 外 東アフリカ原産の外来種。食用として持ち込まれた。
 寄生虫に注意
 殻径最大16cm

オームーナ
アオミオカタニシ
 「青い身の陸にいるタニシ」
 みどりいろ から 緑色は殻ではなく からだ 身体の色が透けて 見えている。
 環境省RL(2020)準絶滅危惧 I 類 沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧 殻径15~17mm

サキシマ ヒシマイマイ
 ほかの島では絶滅し、宮古諸島でだけ生き残った遺存種。平たい殻と模様が特徴的。
 固有種 環境省RL(2020)準絶滅危惧 I 類 沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧 I 類 宮古島市保全種(2005) 殻径16~26mm

ウラキヤマタカ マイマイ
 殻高23mm 殻径24mm
 宮古諸島では大型の陸貝。樹上によくいる。
 固有種 国内希少野生動植物種(2017) 環境省RL(2020)準絶滅危惧 I 類 沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧 I 類 宮古島市保全種(2005)

ミヤコ オキナワギセル
 ナガチビムーナ チビ=しおい
 キセルガイは殻が左巻き。宮古諸島で確認されている生息地は1か所のみ。
 固有種 環境省RL(2020)準絶滅危惧 I 類 沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧 I 類 宮古島市保全種(2005)

タラマ ノミギセル
 キセル タバコを吸う道具
 小さいから「ノミ」ギセル
 固有種 殻長1cm

ミヤコ ヤマトニシ
 殻径20~28mm
 固有亜種 環境省RL(2020)準絶滅危惧 宮古島市保全種(2005)
 模様のバリエーションが多く、たまに模様のない個体もいる。

ハダカ アツブタガイ
 殻径5~8mm
 固有種 環境省RL(2020)準絶滅危惧 宮古島市保全種(2005)
 フタが厚く、泥をまとっていない。
 「カタツムリ」的に「ハダカ」

ミヤコオカチグサ
 殻高6mm
 湿った岩壁にいる。一時絶滅したと思われていた。
 固有種 環境省RL(2020)準絶滅危惧 I 類 沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧 I 類 宮古島市保全種(2005)

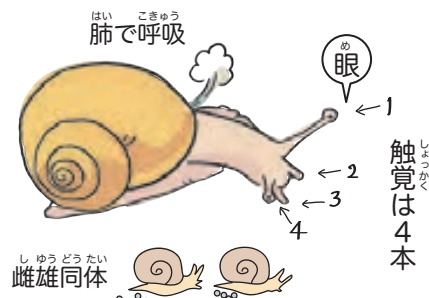
イトカケマイマイ
 殻径6mm
 転石などにいる。宮古諸島で確認されている生息地は1ヶ所のみ。
 固有種 環境省RL(2020)準絶滅危惧 I 類 沖縄県RDB(2017)準絶滅危惧 I 類 宮古島市保全種(2005)

ヤエヤママキサゴ
 アマオブネという海の貝に近い種。葉の上などにいる。フタは薄く透明なので見えない。
 殻径3~4mm

ミヤコ ゴマガイ
 落ち葉の裏にいる。
 殻高3~4mm
 固有種 宮古島市保全種(2005)

意外と知らない陸産貝類

マイマイのなかま=カタツムリ



どちらも卵を産む

休眠するときはエピラムという薄い膜をはって乾燥を防ぐ。



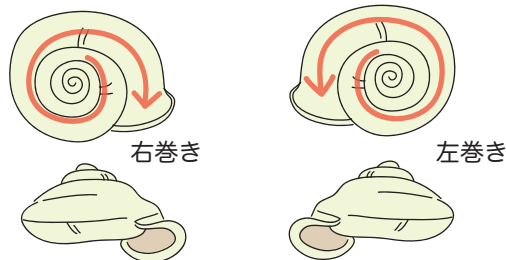
タニシ・アマオブネのなかま



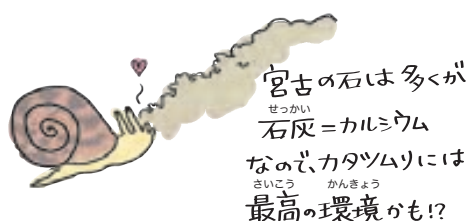
休眠するときはぴったりフタを閉じて乾燥を防ぐ。



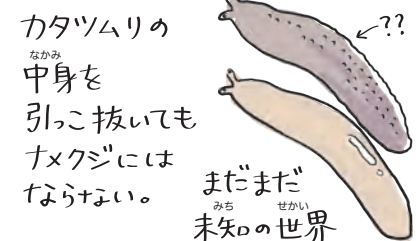
カタツムリの多くは右巻きで、殻が時計回りに成長します。キセルガイは左巻きですが、左巻きのカタツムリはあまりいません。



殻をつくるために石やコンクリートを食べる!



ナメクジは陸貝の殻がなくなった種



野外観察のときに気をつけること

生き物を触ってみたいときは?

触る前と後で、必ず手を洗いましょう。野生生物には寄生虫やダニ、病原菌を持っているものがあります。生き物を触ったあとは、手で目や口の周りを触らないよう注意しましょう。



生き物を探するために掘った穴や、ひっくり返した石は?

できるだけ元に戻しましょう。環境が変化してしまうと、そこにすむ生物に影響してしまいます。



生き物を観察するために、遊歩道から外れてもいい?

むやみに林内に入るのはやめましょう。ケガの危険もありますが、歩いて土を固めてしまったり、エサとなる植物を傷めってしまうなど、環境が悪化することがあります。



落ちている野鳥のヒナなど、保護しても大丈夫?

基本的にはできません。ただ、事故にあう危険性がある場合は、場所を移すことができます。他の希少生物も同じです。



特定外来生物を見つけた。捕獲・駆除したほうがいい?

正しい捕獲・駆除の仕方を知らないと、きちんと駆除できず、逆に拡散してしまうおそれがあります。市の環境衛生局に問い合わせるなど、自治体の指示に従いましょう。



むかしむかし、山の中でネズミとヤドカリが会いました。お互いに名前を知らないの、ヤドカリは「私の名前はカサというのさ」と、ネズミは「私の名前はコラマタというんだよ」と、自分の名前を言いました。なんとも不思議な名前です。「それでは、その名前が本当かどうか確かめようじゃないか」ということになり、2匹で山の中に入っていました。

すると、そこには枯れ葉が落ちていて、ヤドカリはその上を重たい殻を引きずって歩くものだから、枯れ葉がカサカサと音を立てました。

「ほらね、木の葉も私のことをカサカサと呼んでいるでしょう」とヤドカリが言います。

ネズミは『なるほど、これは本当だな』と思い、「では、今度は私の名前を確かめに行きましょう」とヤドカリを誘って人の家の中に入っ、押入れのすみをガリガリとかじったのです。

すると、その家の主人が「コラマタ！」と大声で叫ぶ声が聞こえました。

ネズミは「ほらね、私の名前もコラマタに違いないでしょう」と言いました。



参考：『ゆがたい—宮古島の民話 第4集—』ねずみとやどかり (1984)

むかし、いまより遠い山に行きたいと思っているカエルがいました。そんなときに、イノシシと出会います。カエルは、「そうだ、イノシシに乗って行こう！」と考え、イノシシに「あの山の下まで誰が早いか背負って勝負をしよう」と声をかけました。ところがイノシシは「君は私を背負うことができるのか？」と疑います。カエルは「なにいてるんだ、体は小さくても力持ちだから問題ないよ。それじゃ、初めに私を背負っておくれ」と言いました。

そして、イノシシがカエルをのせてめざす山の下まで行ってくれたので、カエルは大喜び。

「さあ、今度はお前の番だ」とイノシシが言うと、カエルは「どうぞ乗ってください。でも空だけを見ていてくださいね」と言うのです。

イノシシは言われたとおりに空を見てみると、風が強く吹いて、雲がどんどん後ろへ飛んでいきます。

「なんと、君は全然進めないだろう

と思ったのに、私より早いじゃないか！」と感動して「もう十分だよ」と言って地面を見ると、なんと、さっきと同じ場所にいるではないですか。イノシシは「どうしたのかい！」と大変怒りました。すると、カエルは「だましてごめんなさい。許してくれたら、あなたたちが田んぼでお米を食べる時、すぐに仲間を呼んで一斉に鳴いて、あなたたちが食べている音が聞こえないようにしてあげますから」と謝りました。

イノシシも「そんなことであるならば」と許してあげました。

それからというもの、春のうりずんの季節になると、カエルが大声で鳴くそうです。



参考：『ゆがたい—宮古島の民話 第2集—』蛙と猪の知恵くらべ (1980)

外来種 入れない、捨てない、拡げない

外来種とはもともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって外から持ち込まれた生物のことです。船の貨物に紛れ込んだり、衣服に付着して移入することもあります。日本の生物だとしても、もともといなかった地域に持ち込まれた場合は、外来種となります。宮古諸島でも、外来種が生態系に影響を与えています。

侵略的外来種

在来種とエサや棲みかが同じで競争しあったり、在来種と交配して雑種が生まれてしまうもの。

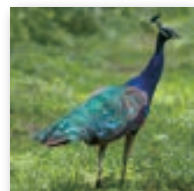
特定外来生物

海外から入った種のうち、生態系や人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすおそれがあるもの。

外来生物法

特定外来生物の輸入、運搬、放出、飼育、譲渡の禁止、防除などを定めた法律。個体だけでなく卵なども含む。

いそいで対策し、積極的に防除を行う必要がある外来種



インドクジャク

緊急対策外来種(環境省)
指定外来種・重点対策種(沖縄県)

オス 全長 180~230cm
メス 全長 90~100cm

寿命は20~30年。昼行性で夜は樹上で休む。なんでも食べる。ペットが逃げて野生化したとされる。ミヤコカナヘビなども食べている可能性が高く、環境保全課が2050年までに根絶させる目標を立てている。



ニホンイタチ

緊急対策外来種(環境省)
指定外来種・重点対策種(沖縄県)

頭胴長 オス27~37cm
メス16~25cm

撮影：慶留間島

おもに夜行性。なんでも食べる。1966年にネズミ対策として宮古に導入。フンからミヤコカナヘビの骨などが発見されている。現在、県が捕獲作業と生息状況調査などを行っている。

※クジャク、イタチは許可なく捕まえたり、放したりすることは法律で規制されています



写真提供

荷川取牧場 扉絵

鳥羽水族館 ジュゴン

城間恒宏(糸満高等学校)

クマネズミ/ドブネズミ/ニホンイタチ

田村常雄

オキナワコキクガシラコウモリ/アブラコウモリ

仲地邦博(宮古野鳥の会)

サシバ/アカハラダカ/ヨナグニカラスバト/キンバト/キジバト/チュウダイズアカアオバト/ヒヨドリ/イソヒヨドリ(雄)/シロハラクイナ/リュウキュウキビタキ/ミフウズラ/サンコウチョウ(雄)/アカショウビン/エリグロアジサシ/コアジサシ/ベニアジサシ/マミジロアジサシ/ズグロミゾゴイ/ゴイサギ/リュウキュウヨシゴイ/コウノトリ/ミサゴ/リュウキュウツバメ/スズメ/セッカ/インドクジャク

当山昌直

ミヤコカナヘビ/ミヤコヒメヘビ/ホオグロヤモリ(成体・足裏)/ミナミヤモリ(成体・足裏)/オンナダケヤモリ(成体・足裏)/サキシマヌマガエル/ヒメアマガエル/シロアゴガエル(卵)

佐藤宣子(宮古島市教育委員会)

サキシママダラ/サキシマスジロ

藤田喜久(沖縄県立芸術大学)

ヤシガニ/ヤシガニ(抱卵)/ヤシガニ(ゾエア)/ヤシガニ(グラウト工)/ヤシガニ(殻を背負ったグラウト工)/貝殻を背負ったヤシガニ/オカヤドカリ/ムラサキオカヤドカリ/ナキオカヤドカリ/コムラサキオカヤドカリ/オナキオカヤドカリ/サキシマオカヤドカリ/オカガニ(放卵)/オオオカガニ/ムラサキオカガニ/ヒメオカガニ/ヤエヤマヒメオカガニ/ヘリトリオカガニ/ミヤコサワガニ/稚ガニを抱えるミヤコサワガニ/サキシマヌマエビ/コンジゲンテナガエビ/モクズガニ/ドウクツヌマエビ/ウリガーテナガエビ

宮古島市総合博物館

ミヤコヒバ/アカマイマイ/アオミオカタニシ/オキナワウスカワマイマイ/サキシマヒシマイマイ/アフリカマイマイ/ウラキヤマタカマイマイ/ミヤコオカチグサ/ミヤコオキナワギセル/イトカケマイマイ/タラノミギセル/ヤエヤママキサゴ/ミヤコヤマトニシ/ハダカアツブタガイ/ミヤコゴマガイ

ぶんかざい たいけいず
文化財の体系図

文化財の種類

特に価値の高いもの

とくに重要なもの

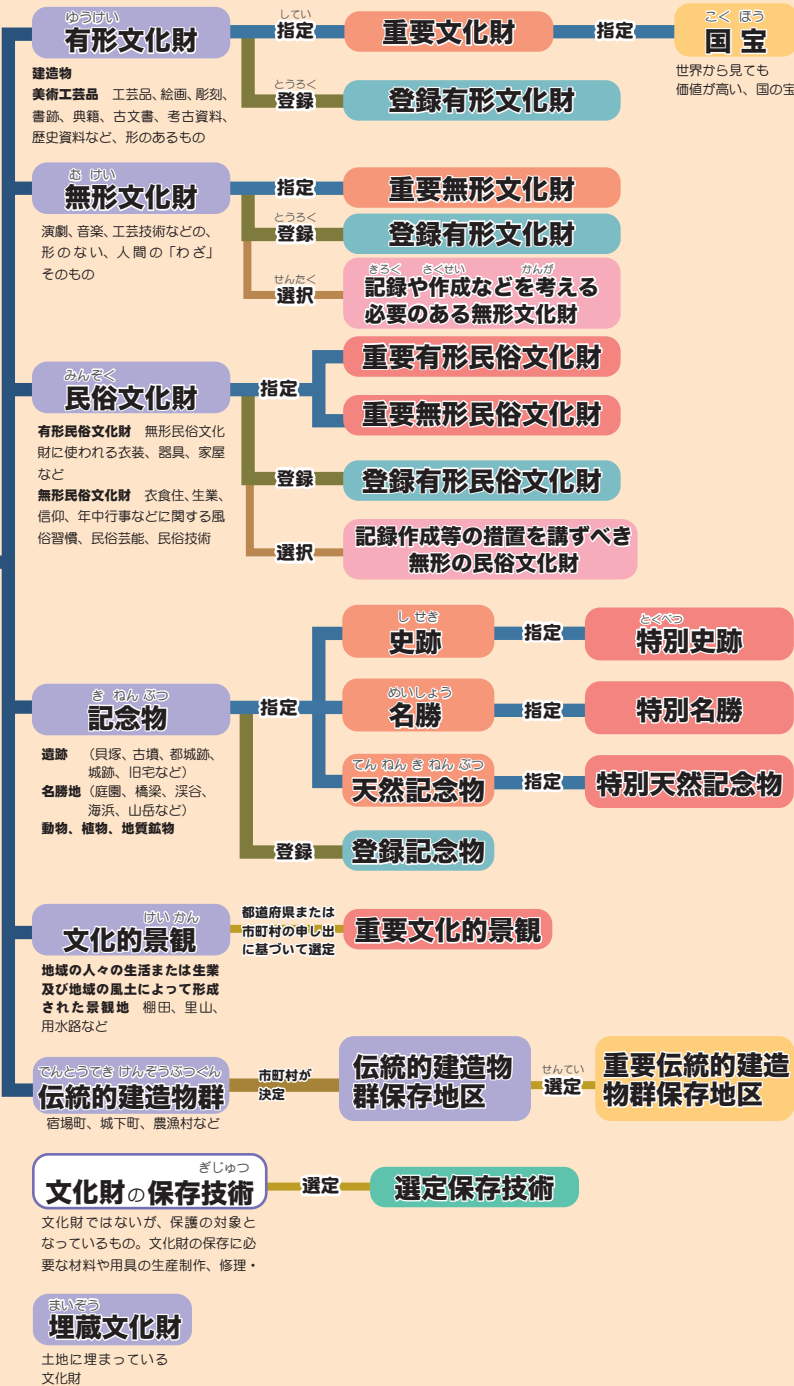
重要なもの

文化財

特に必要のあるもの

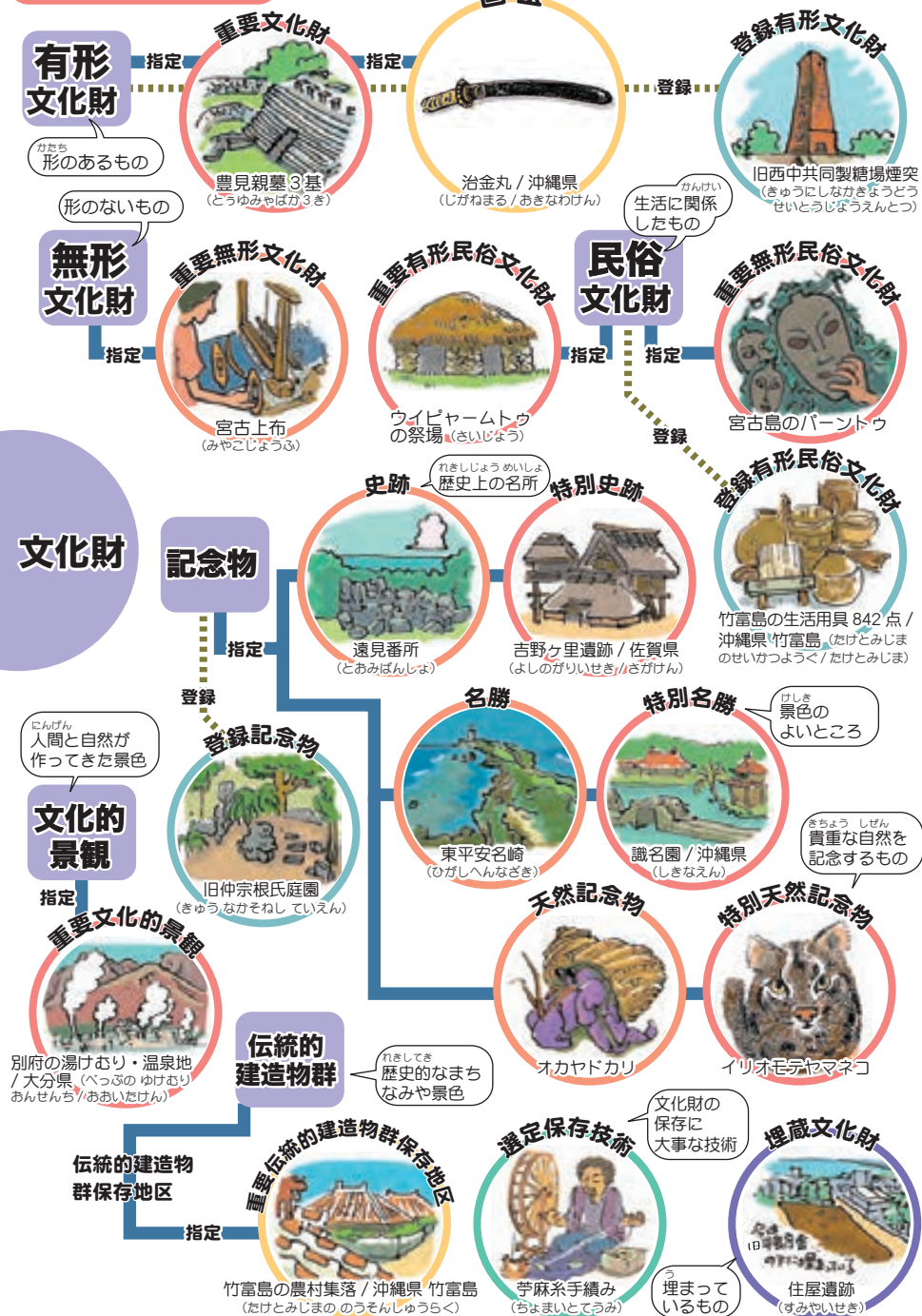
保存と活用が特に必要なもの

保存できるように考える必要があるもの



それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例



わたし ぶん か ざい
私たちの文化財です
たい せつ
大切にしましょう

ぶん か ざい きょ か む だん げんじょうへんこう
文化財を許可なく無断で現状変更する
ことは法律で禁止されています。



この冊子は非売品です (NOT FOR SALE)



教育委員会
公認アプリ

このアプリケーションは、GPS機能を利用したコース案内が可能なほか、現地で文化財の説明などを閲覧することができます(ダウンロードをしておけば、ネット環境が不十分な場所でも文化財の閲覧が可能です)。

ポータルサイト



宮古島市neo歴史文化ロード **綾道(自然・動物編)**

発行 2025(令和7)年3月
編集・発行 宮古島市教育委員会
〒906-0012 沖縄県宮古島市平良字西里1140番地
TEL 0980-72-3764 FAX 0980-73-1976

イラスト・デザイン 山田 光
令和6年度宮古島市neo歴史文化ロード整備事業